

編集後記

新型コロナ収束の兆しもないまま秋になりました。今年は季節を彩る風物詩であるイベント、お祭りはことごとく中止となり、マスク必携の世の中はすっかり緊張・自肃ムードです。学会出張も一度もなく、メリハリに欠けた月日を淡々と過ごしてきた印象です。今年の学会は軒並み中止か延期、もしくはオンライン併用のハイブリッド形式に変更されました。国内数多の学会主催者の方々は突然の対応を迫られ、そのご苦労は計り知れません。

「誌上ギャラリー」は尊田先生から福岡県八女市の山奥にある見事な棚田の風景をいただきました。黄金の稲穂と彼岸花が咲き誇るお彼岸の頃もさぞかし素晴らしいことでしょう。

「学術」には、鹿児島医療センターの櫻井先生から癌性腹水治療の現状についてご寄稿いただきました。従来の腹水濾過濃縮再静注療法 (CART) は多くの欠点や副作用から癌性腹水には適応がありませんでしたが、2008年に考案された改良型 (KM-CART) は欠点が改良されて副作用も軽減され、画期的な腹水治療法として癌性腹水にも効果を発揮しているようです。腹水全量排液も可能で食欲、血液生化学的所見や腎機能の改善も見られ、治療が困難であった癌性腹水に対する新しい治療法として期待されます。

「医師会病院だより」は脳神経内科を中川先生にご紹介いただきました。昨年度の退院総数は前年より大幅に増加し、疾患も多岐に渡り内科系専門医研修体制も充実しています。今年度からスタッフが増員され、発熱外来の開設や新型コロナ感染患者の受け入れなど、スタッフ一丸となって高いアクティビティーで診療を展開しています。

「切手が語る医学」は「サンマリノとアンチルの切手」です。アンチル諸島は中央アメリカ、西インド諸島を構成し、キューバ、ジャマイカなどの大アンチル諸島と小さな島々からなる小アンチル諸島に区分されま

す。サンマリノはイタリアの中に存在する面積が十和田湖ほどのミニ国家で、収集家向けの切手を独自に発行して財源としているそうです。筆者も幼少時に持っていたサンマリノの恐竜切手を思い出しました。古庄先生にはいつも貴重な切手のご紹介をいただき有難うございます。

「リレー随筆」には鹿児島大学病院の岩田先生から「私の修行～病室で念仏を唱えないで～」という、テレビドラマを連想させるタイトルでご寄稿をいただきました。友人との過酷な「マイル修業」を見事成就され、悟りの境地に達するまでの過程が綴られています。折角手にした「悟り」の成果を存分に発揮できる世の中が早く来ることをお祈りします。

武元先生からは夏に受診が増える貧血外来患者の中、鉄欠乏性貧血に潜むビタミンB₁₂低値の症例をご提示いただきました。

「鹿市医郷壇」の題吟は「叱(が)つ」です。会員先生がたのご投句をお待ちしています。

本稿執筆中の今現在、春から延期された全国学会がハイブリッド形式で開催されています。はじめてweb参加なるものを体験しましたが、学会に参加している実感が全く湧きません。学会出張といえば、教室員が大挙して参加し、会場を見つけては街に繰り出して地元の食材に舌鼓を打ち一献かたむける、などという楽しみも恒例でした。効率的で利便性の高いオンラインが定着する「新時代」では、かつての学会参加風景は古き良き時代の昔話になってしまうのでしょうか。予想より早目の第2波到来、いずれ訪れるであろう第3波、そして収束までは数年かかるとも言われるコロナ時代。今はまだ9カ月目と言ったところなのでしょうか。とにかく早く収束して平穏な世の中に戻ることを願います。

(編集委員 森岡 康祐)